

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2020年 第46週（11月9日～11月15日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、咳エチケットが重要

定点把握感染症

「水痘 増加」

第46週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は752例であり、前週比8.0%増であった。昨年同週比65.7%減（2019年 第46週2,190例）と少ない状況である。

定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、ヘルパンギーナ、水痘・咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ1.98、0.54、0.39、0.30、0.23であった。

感染性胃腸炎は前週比7%増の388例で、中河内3.70、南河内2.69、大阪市南部2.53、泉州2.15、三島2.06である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週比10%減の106例で、中河内1.15、北河内0.92、大阪市南部0.71であった。

ヘルパンギーナは前週比17%減の59例で、南河内1.56、三島0.35、中河内0.30である。

水痘は前週比44%増の46例で、三島0.53、大阪市北部0.43、北河内0.38であった。

咽頭結膜熱は前週比29%増の45例で、北河内0.42、泉州0.35、大阪市東部0.33であった。

インフルエンザは6例減の2例であり、昨年同週比99.2%減（2019年 第46週 254例）と少ない状況である。

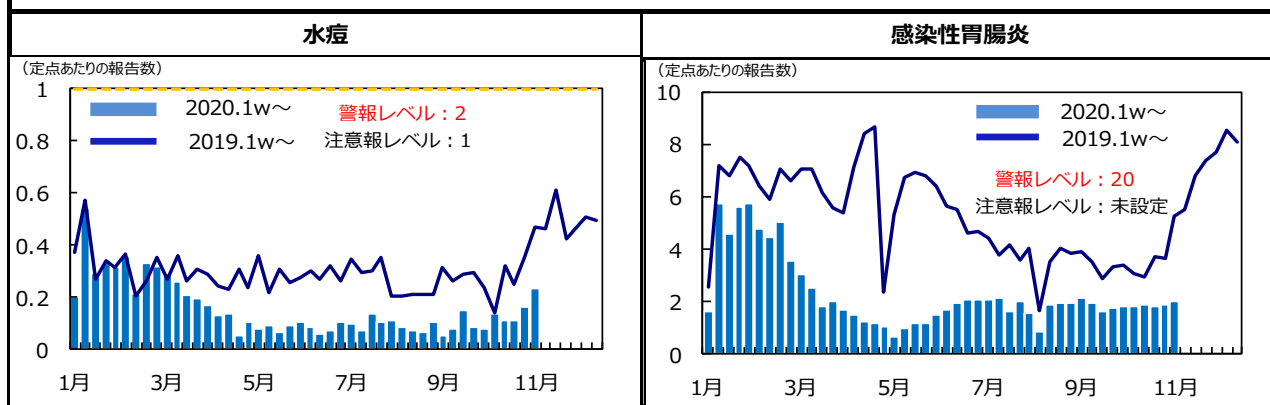


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2020年 第46週11月9日～11月15日）

第46週の順位	第45週の順位	感染症	2020年 第46週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2019年 第46週の 定点あたり 報告数	2020年第46週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	1.98	7%増	5.25	10-14歳_18%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.54	10%減	2.54	5歳_15%
3	4	突発性発しん	0.39	28%増	0.38	1歳_48%
4	3	ヘルパンギーナ	0.30	17%減	0.11	1歳_37%
5	6	水痘	0.23	44%増	0.47	5歳_17%
5	5	咽頭結膜熱	0.23	29%増	0.38	1歳_64%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.01	75%減	0.84	10-14歳・20歳以上_50%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第46週のコメント

～バンコマイシン耐性腸球菌感染症～ 2019年の報告数は、大阪府が全国で第一位である

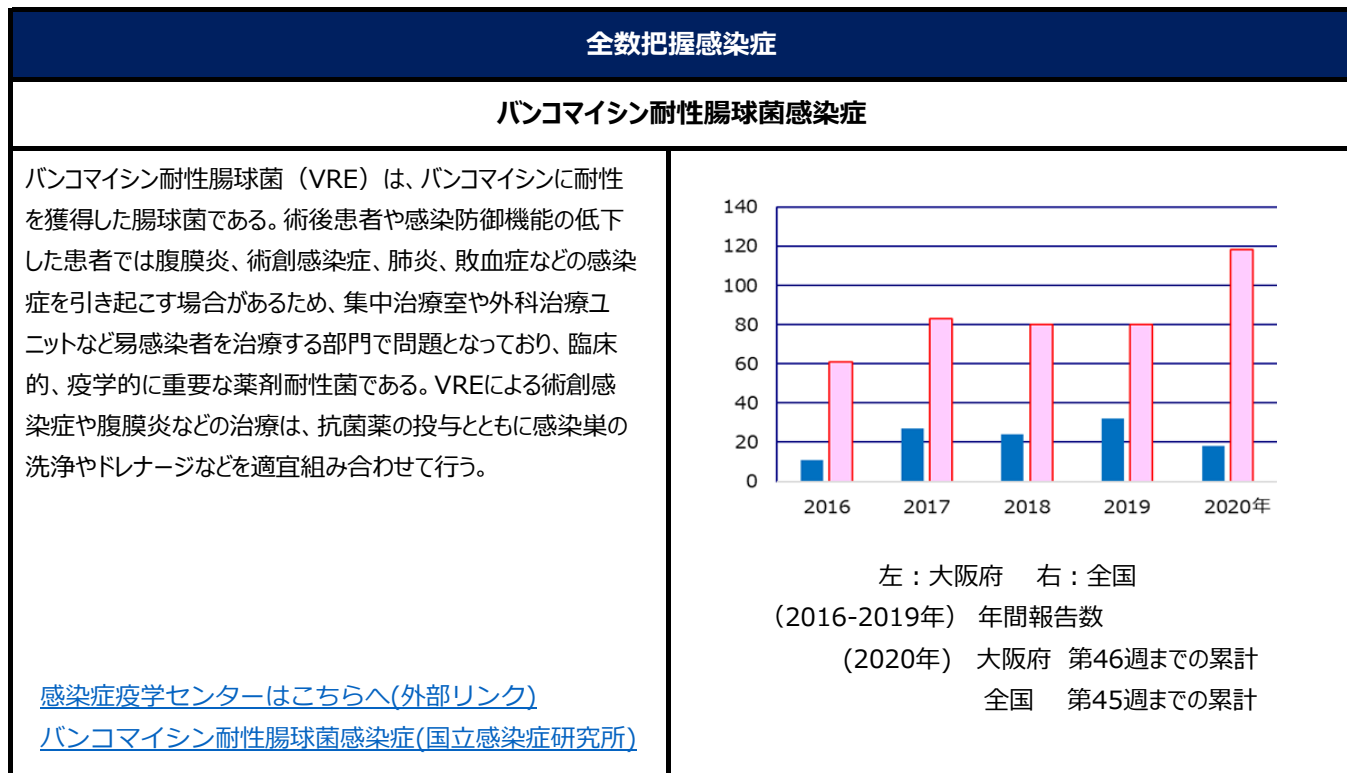


表 2. 大阪府全数報告数（2020年 第46週11月9日～11月15日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。)

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	府内市町村								府内累積報告数
			豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	
4 類感染症	レジオネラ症(肺炎型)	1			1						92
5 類感染症	ウイルス性肝炎(B型)	1								1	20
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2			1		1				128
	梅毒	8	2	1						5	792
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1								1	18
指定感染症	新型コロナウイルス感染症	1,605									15,421
結核 (2020年9月分)	結核 新登録患者数：122名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 54名) (府内累積報告数 1,101名、内 肺・喀痰塗抹陽性 416名)										

(2020年11月17日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の集計は、11月9日から11月15日の大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の情報をご覧ください。](#)